



2026年5月28日、「みやぎSDGs塾」=？=第5ターム後期1回目の講座が河北新報社で開催され、「実践コース」「標準コース」それぞれで新たな交流が生まれました。

標準コース

「みやぎSDGsアンバサダー」を目指して始動

第5ターム・後期の初回の講座となった「みやぎSDGs塾・標準コース」には、「みやぎSDGsアンバサダー」を目指す新たなメンバーが集まりました。

SDGsの現状を知る

「みやぎSDGs塾・標準コース」の参加者は、9月まで5回の講座を



「みやぎSDGs塾・標準コース」第5ターム後期メンバー

通して学びを深め、修了と同時に「みやぎSDGsアンバサダー」に認定されます。「みやぎSDGsアンバサダー」は企業や組織の垣根を越えて連携し、SDGs活動を地域に広めていく役割を担うことになります。

講座の第1回となった今回は、「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務める紅邑晶子さん(SDGsとうほく)が講話。SDGsの17項目の目標について解説しつつ、「ジェンダー平等の達成度が低い」など日本において特に課題となっている点を強調しました。また「女性による業務改善委員会を設置(スィコー)」、「高校生と企業の交流を通じてSDGsを理解(日本旅行東北)など、宮城県内の企業の事例も紹介しました。

参加企業の取り組みを知る

紅邑さんの講話に続いて参加者らは、グループごとに情報交換した後、

それぞれの所属先の取り組みについて他の参加者に向けて報告しました。「平時は地域の人が研修や集会などに活用でき、災害時には一時避難所として機能する地域共創施設を大崎市に建設中(エネサンス東北)」、「イベントや地域清掃を通じて地域の人と交流している(山一地所)などの取り組みに注目が集まりました。



グループに分かれ、それぞれの所属先のSDGs関連の取り組みなどを紹介し合う参加者



新たな仲間と出会い、学びと交流を深める

実践コース

「みやぎブルーカーボンプロジェクト」について意見交換

「みやぎSDGs塾・実践コース」では毎回、企業のSDGs担当者や自治体職員、「みやぎSDGs塾・標準コース」を修了した「みやぎSDGsアンバサダー」などが集まり、それぞれの活動状況を報告し合うとともに、ディスカッションを通して地域の課題解決に向けた連携の可能性を探っています。

「ブルーカーボン」に県が着目

この日の「実践コース」では、宮城県水産産業基盤整備課の大沼千鶴さんが、県が主導する「みやぎブルーカーボンプロジェクト」について紹介しました。「カーボン」は炭素を意味し、海洋生態系が光合成により空気中の二酸化炭素(CO₂)を取り込み、その後海底や深海に蓄積される炭素を「ブルーカーボン」と言います。

宮城県は、海藻が繁茂する「藻場」が東日本大震災で失われたことに着



宮城県の大沼さん(左から3人目)の話を聞く参加者

目し、藻場の造成・保全や海藻養殖の増産によってその回復を図る「みやぎブルーカーボンプロジェクト」を進めています。大沼さんは、同プロジェクトが海洋生態系の保全に資するほか、大気中のCO₂の削減にもつながると説明。さらに、創出されたブ

参加者の声

他業種との交流に期待

エネサンス東北 大井川ありすさん

企業がSDGsの取り組みを進めていくためには、業種を超えた協調が不可欠だと感じています。「みやぎSDGs塾」での交流を通じ、自社の活動に生かせるヒントを見つけたいと思います。



また大沼さんはブルーカーボン事業の普及の難しさについても指摘。参加者からは「クレジットを購入している企業の声をチラシやウェブサイトで紹介しては」など積極的な提案がなされました。

ルーカーボンを「Jブルークレジット」として販売していることについても触れ、企業がクレジットを購入することがSDGsへの貢献になると話しました。

SDGsとうほくコラム

信頼から始まるエシカル消費

尚網学院大学 人文社会学類 教授 渡邊千恵子さん



先日、住宅展示場で開かれたマルシェを訪れた。あいにくの天候で来場者は少なかったが、その分、出店者の方々とゆつくり話をすることができた。量り売りのドライフルーツやナッツ、シルクの靴下などを購入したが、心に残ったのは商品そのもののより、出店者との会話だった。価値観を共有できる方々の語らひは心地よく、帰る頃には温かな気持ちになっていた。

初めて会った方々だったにもかかわらず、「応援したい」という気持ち自然に湧いてきた。それは商品の背景にある思いや価値観、人柄に触れたからだろう。その人の活動がこれからも続いてほしい、そんな思いも芽生えていた。

エシカル消費では認証マークやフェアトレードなどが注目される。しかし、私たちの選択はそれだけで決まるものではない。誰がつくり、どのような思いで活動しているのかを知ることで信頼が生まれ、「この人を応援したい」という選択につながっていく。

情報があふれる時代だからこそ、私たちに必要なのは「正解」を探すことではなく、「信頼できる選択」を積み重ねることではないだろうか。「応援したい」「これからも続けてほしい」と願う気持ちを込めた一つひとつの選択が、持続可能な社会を支える力になると信じている。

SDGs Farmから生まれた共創事業

高校生の取り組みに学ぶ

地域の歴史と価値を知る、国分東北の新人研修



震災被害や復興の様子について語り伝える高校生(右)の話を聞く国分東北新入社員ら

作成した動画などに触れ、地域の被災状況やその後の復興の様子について学びました。

人事担当者として新人研修を企画した国分東北の佐藤悟さんは、「新入社員は今後、食品を通じて地域の特色や魅力を伝える事業に携わっていく。そのためには地域の食の背景を本質的に理解することが重要。現地での研修がその一歩になった」と手応えを話してくれました。



賛同企業
募集中!!



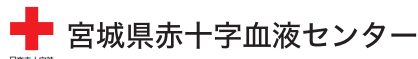
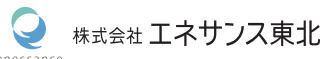
【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

公式HP

第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森丈広【SKホールディングス】【エネサンス】大井川ありす、高橋里奈【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、守屋利都子【国分東北】佐藤理紗、小笠原有歩【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼眞洋、花村祐太、野口遼南【タイハク】山田妃那、及川達也、白井泉水、永坂舞【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】鈴木瑠里、蔡宜静【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚網学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩竈 WACO CREATE 仙台高等学校 尚網学院大学SDGsセンター